

# 日本共産党

## 磯城郡議員団だより

和也 Eメール info@k-shiba.jp  
 川西町結崎 8 6 2 - 7 0745-43-2415  
 吉田 容工 Eメール katunori\_yosida@ybb.ne.jp  
 田原本町大木 1 1 3 - 5 090-5257-4446  
 森 良子 Eメール qfndg008@ybb.ne.jp  
 田原本町鍵 2 8 1 - 1 0744-33-8570  
 (事務局) 池田年夫 Eメール uvvkk87386@zeus.eonet.ne.jp  
 三宅町屏風 4 4 0 - 5 0745-43-2661

# 全 原 発 き よ う 停 止

### 高まる世論反映

北海道電力泊原発3号機(泊村)が5日夜、定期検査のため運転を停止し、国内に50基ある、すべての原発が止まります。東京電力福島第1原発事故による国民の原発に対する不安、政府や電力会社などへの不信の高まりを背景に、「再稼働を許すな」「原発ゼロ」を求める世論と運動が広がっています。こうした状況のもとで、全原発が停止するのは初めてのことです。

日本で商業用原発が営業運転を開始したのは1966年7月、日本原子力発電東海原発(茨城県東海村、現在解体作業中)が最初です。国内の全原発が止まるのは、1970年4月に東海原発と同社の敦賀原発1号機(福井県敦賀市)の2基が同時に停止して以来42年ぶりです。

福島第1原発事故の前は、54基(廃炉になった福島第1の1、4号機を含む)のうち37基が運転中でした。しかし、震災による事故や、定期検査(通常13カ月に1度)などのために次々停止したまま、再稼働ができなくなっています。

泊原発3号機は昨年1月に定期検査に入り、原子炉をいったん停止。震災前の同3月上旬から、営業運転の再開を判断する「調整運転」を5カ月以上にわたって続け

た末に営業運転再開を強行し、批判を浴びました。

一方、政府は、財界の「原発」基幹電源」という圧力に屈し、電力会社の報告をうのみにした「電力不足」を口実に、関西電力大飯原発3、4号機(福井県おおい町)の再稼働を急いでいます。

しかし、福島第1原発の事故原因の究明が終わらず、政府が導入したストレステスト(耐性試験)は欠陥が明らかになり、事故が起きた時の住民避難計画は整備されておらず、まともな規制機関もないなど、「ないないづくし」のなかで、原発から国民の命と安全を守る保証はまったくありません。

2012年5月5日(土)

### 「動的防衛協力」の名での軍事同盟の危険な変質を許さない

#### 日米首脳会談 志位和夫委員長の談話

日本共産党の志位和夫委員長は1日、日米首脳会談について次の談話を発表しました。

一、野田首相とオバマ大統領は、1日(日本時間)、ワシントンで日米首脳会談をおこない、「未来に向けた共通のビジョン」と題する共同声明を発表した。

日米首脳会談は、米軍と自衛隊の「動的防衛協力」に踏み出すなど、日本国憲法に真つ向から反する日米軍事同盟の侵略的変質、日本の経済主権を投げ捨てるTPP(環太平洋連携協定)の推進、国民の生命と安全を脅かす原発推進への日米協力をうちだすなど、異常な対米追従ぶりを際立たせるものとなった。

一、共同声明は、日米は「アジア太平洋地域と世界の平和、繁栄、安全保障を推進するためあらゆる能力を駆使し、役割と責任を果たすことを誓う」とのべ、日米軍事同盟を地球規模に拡大することを、あからさまに公言している。

とりわけ重大なのは、共同声明が、自衛隊と米軍の「2国間の動的防衛協力」の強化やグアムおよび北マリアナ諸島での「共同使用」する訓練場の建設などを明記した米軍再編見直し計画について、「地域の多様な緊急事態に日米同盟が対応する能力をさらに高める」とのべ、「防衛協力の更なる強化を目指す」と強調していることである。

日米の「動的防衛協力」とは、米軍と

### 東日本地震・12号台風への救援募金に「協力を

日本共産党は被災者の救済・支援のために、救援募金を引き続きお願いしております。ご協力をお願いします。

【郵便振替口座】

0017017198422

名義は、日本共産党中央委員会です。送金いただく場合は、振替用紙の通信欄に、かならず、「地震救援募金」である事を明記して下さい。ご協力よろしくお願いします。

磯城郡日本共産党議員団

自衛隊が、海外で共同した軍事活動をおこない、「肩を並べて武力行使する」「集団的自衛権行使」にむけた重大な一歩を踏み出すというものである。それは、日米軍事同盟のきわめて危険な侵略的変質をはかるものであり、海外での武力行使を禁じた日本国憲法にまっこうから逆らうものである。

一、日米首脳会談は、日本の経済主権を投げ捨てるTPPへの参加に突き進むものとなった。首脳会談では、オバマ大統領が、保険、牛肉、自動車の3分野での規制緩和と「市場開放」への日本政府の取り組みを、日本のTPP参加の前提条件として迫り、共同声明は「2国間協議を引き続き前進させる」とした。TPP交渉の「入り口」から「アメリカ型ルール」の押し付けを迫る米国と、それに屈する日本政府の姿勢が鮮明となった。

一、共同声明は、「原子力エネルギーの平和的、安全・安心な利用」での協力を打ち出した。民主党政権が、アメリカの「お墨付き」で、国民が強く反対する原発の再稼働や、「原子力エネルギー利用」の推進をはかるといふ立場を鮮明にしたことは重大であり、「アメリカ頼み」で、原発の維持・推進をはかろうという政府の姿勢は断じて許されるものではない。

一、「こうした異常なアメリカ追随外交」「アメリカいいなり政治」は、根本からただされるべきである。日本共産党は、TPP参加反対、「原発ゼロ」の日本、基地強化反対、普天間基地の無条件撤去、憲法改悪反対など、一致する要求にもとづく共同のたたかいを前進させながら、「アメリカいいなり政治」の根源にある日米安保条約廃棄を求める国民的世論をひろげるために奮闘する。

2012年5月2日(水)

## 企業誘致

先の議会で企業誘致について質問しました。町内の製造業者数は、平成十七年一一〇事業所が平成二十二年八四事業所に減ったそうです。

町の企業誘致活動で昨年以降、本町内に進出を決めた製造業者は二件だそうです。富本の池木プラスチックと満田の松元加工は四月あるいは五月から本格操業されています。その他に、ぬくもり田原本やイオンサイクルなど新しい事業所が進出されています。先日も、炭火焼肉たむらが開店しました。開店数日前に担当部長に尋ねたところ、

残念ながらご存知ありませんでした。

町の産業振興からすると製造業以外の企業にも着目してほしいものです。個人的には企業の動向について新聞折込の求人広告に注目しています。六日の広告には、特別養護老人ホーム「しきの郷」(西竹田)が七月にオープンすること、ピザとパスタの店「ビバーチエ」(味間)が七月二日にオープンすると書かれています。

色々な店が出来て町外からの集客力が上がると活気が出てきます。

田原本町議会議員  
吉田 容工



## 原発停止と

### 資本の追求

北海道泊原発が定期検査のために5日夜停止。日本の原発50基すべてが停止したことになりました。

原子力発電の停止で、

夏場の節電が要請されることを見越して、大企業などは5月の連休に連休返上で稼働させ、生産増をしていることが新聞報道されています。資本の儲け本位の姿勢が表れています。この条文を今こそ政府も自治体も守らせることを要求していくことが

力供給が夏場を乗り越えられるのか新聞やマスコミなどで報道され、政府

も電力会社の電力需要が

過大に、供給が過少に見込まれているのではないかとということで再評価しているようですが、原子力から自然エネルギーへの転換について政府が方針転換する時が来ているのではないのでしょうか。

5月3日は憲法記念日

三宅町  
池田 年夫



## ますます輝く

### 日本国憲法!

五日の夜、見事に輝く満月はご覧になりましたか。この日の月は、楕円を描くその軌道上、地球に一番近づく近地点(地球から約三五万六四〇〇キロ)におよそ五〇〇キロまで接近していたようで、近地点の月の事を『スーパームーン』と呼ぶそうです。で、この『スーパームーン』は、一番遠い時より十四%大きく、三〇%明るいそうですよ。

さて、毎年巡って来る五月三日の憲法記念日ですが、日本国憲法について想いを巡らせるような事は皆さん有りますか。まあ、憲法は我々日本国民には空気がたいて存在してしまっていて物凄く大切ですが、それがごく自然

に在りますので、特段気に留める事なんて有りませんよね。

所が、マスコミ各社や改憲勢力は改憲世論の喚起に必死ですが、この憲法、国際的には類まれな存在として、実は大きな注目を浴びているんです。誕生以来姿を変えていない現役最高齢で、現在、世界で主流とされている権利のランキングを十九位まで全て満たしている抜きんでている、最高齢にして先駆性を世界に燦然と輝かせている掛け替えのない存在その物です。

改憲どころか、暮らしに活かし守り発展させようでは有りませんか。

川西町議会議員

芝 和也



## ふる里は元気でした!

この連休中、数年間帰つてなかつたふる里の兵庫県の養父市大屋町に帰省しました。

八鹿駅から車で更に三分奥へ。「夜は時々、鹿が飛び出して来るので車の運転は怖い」と姪の言葉どおり、自然豊かな田舎です。しかし、この田舎の変わり様には驚きました。

私の通った小中学校は廃校になっていますが、校舎の立地を活かし4年前から「但馬醸造株式会社」が出来ています。この会社の立ち上げには、私の同級生も大奮闘したと聞いていたので、寄つてみました。が仕事で出かけていて会えませんでしたが、それでも会社の方は私達三人を丁寧な説明で工場を見学させて下さいました。ここでは酢の製

造、及び販売をされていて、地元のお酒を入れてるゆずぼん酢、塩ぼん酢、料理酢、純米酢など種類も豊富で、私も一本買ってみました。

母校が朽ち果てていく姿ではなく、こんな風に生まれ変わり地域の活力になっている姿を見れたのは、本当に嬉しく思いました。会社案内のチラシにあった大屋町のキャッチフレーズ「星と語る森と清流のまち」。まさに、そのままのふる里でした。まだお伝えしたい事がありますので、次回に続きます。お楽しみに!

田原本町議  
會議員  
森 良子

